

失業率、加齢、教育と非正規雇用

- 同居と家庭環境を考慮して -

大阪市立大学 滋野由紀子

広島大学 松浦克己

報告要旨

本稿は若年者を対象に独自に実施したアンケート調査を用いて、親子同居と正規就業選択の同時決定性を明示的に考慮した上で、調査時点の正規就業確率に与える学卒前年時の若年失業率と加齢の効果を検証した。その結果、採用については「新卒一括採用」、入社後の評価は「年功」を基本とする人事システムでは、就活中の失業率の高さは新規雇用正規職員のポストを減らすので正規就業確率を低下させ、非正規雇用経験を評価しないシステムの下では加齢と共に正規就業確率は一層低下することを明らかにした。非正規雇用になるというのは親が豊かだから親に甘えているというようなものでは決してなかった。そのときの厳しい経済状況で非正規となり、それが日本の人事システムで加速されているというものであった。他方、最終学歴は正規就業確率を有意に高めるが、その取得に至るまでの経緯や家庭環境は全く影響しないことも我々は明らかにした。